

## 日本助産学会と ICM

日本助産学会理事長 近藤潤子

1990年6月1日付で国際助産婦連盟(ICM)に加盟した本学会にとって最初の国際評議会が10月2、4日および学際大会が10月7～12日まで神戸で開催された。

国際評議会に本学会から理事長及び三井政子理事が出席した。第22回国際学術大会の準備はすでに日本助産婦会、日本看護協会(助産婦職能)によって進められ大詰にきていたので本学会は、演題の発表など一般的に参加した。

国際評議会では、本学会の加盟を終始暖かく支持して下さったゴブラン事務局長が病気のため急に来日を中止されたために、ICMの将来を深く考慮されていた同事務局長の構想が評議会に十分伝えられなかったのではないかと惜しまれた。評議会における報告や議事の内容は後日、学会誌や総会において報告する予定である。

学会は講演、パネルディスカッション、分科会、ポスターセッション、フィルムセッション等を通じて数多くの発表や討議が行われた。

世界の多くの国々の助産婦によって、助産婦の活動、制度や教育の現状や成果等様々な問題が報告され、討議された。

助産婦であることに誇りをもって活動している世界の助産婦達の熱気に溢れた集りの延長として大会終了後、本学会有志とイギリス、アメリカ、ニュージーランドの助産婦の間で最近の業務や教育制度等に関する集会を持つことができ有意義であった。

世界の助産婦を通じて、この職種の重要性、援助のユニークさ、技術改善の意気込み、制度を守る熱意に心を打たれた。これらの交流

を通じて、真の意見交換を持てた。母子保健水準の高い国ほど、確かな助産婦教育に留意しているようで、助産婦教育を看護基礎教育に包含してしまおうとするわが国の一部の動きに、多くの国が深い関心を示し、開業権を持つ先見ある、日本の助産婦の制度は世界の助産婦のあこがれであり、モデルとしてしっかりこの制度を護ることを強く希望された。次回のICMはカナダ、次々回はフィンランドで開催されることが定まった。

ICMへの加盟は規約によれば、助産婦の団体が加盟して構成されるものであり、助産婦のメンバーを含む団体や加盟する場合は、その組織の中で助産婦の事柄を助産婦によって決議することができる場合のみ加盟ができることになっている。助産婦のあり方について助産婦自身がしっかりと目を見開いて助産婦のため、消費者のために根をすえて取り組まなければならないと痛感させられた。

多くの情報をもとにしての評議会では将来の助産婦のあり方を十分検討しなければならぬと痛感している。



## 第22回 ICM 学術集会を終えて

日本助産学会理事・日本助産婦会会長

伊藤 隆子

去る1990年10月7日より12日迄、神戸市で行なわれた国際会議に出席して経験したいくつものことについて述べてみます。私共日本助産婦が22回 ICM 学術集会の主催団体の1つとして参加をきめたのは、前回のオランダで行なわれた21回学術大会の時でした。

近年とみに高令化して行く会員の方達や経済的負担のことを思いこした大きな会を引き受けてどうなるのかという心配もありました。私達を参加にふみ切らしたのは、これらのできごとは、歴史的な経過のなかで、事実として評価されるであろう1つの経移を考え理事の方達とも相談し、最終的にきめた次第でした。その実、助産学会が今回の大会から参加したことは、これからの会の発展とともに意義あることと思いました。

この学術大会開催に先だって2日～4日まで、本部主催の国際評議会が実施され、日本からは日本看護協会南野知恵子・野村紀子、助産学会からは、近藤潤子・三井政子、日本助産婦会からは伊藤隆子・山崎サクの諸姉が出席しました。この会の内容は理事長から報告があると思います。

今回学術大会の会場に当てられたのは、神戸ポートアイランドのなかのワールド記念ホール及び神戸国際会議場でこの種の会議場としてはよく設備され、交通機関に幾分の不便はあったものと満足に近かったと思いました。唯、参加者の人数を今までの大会を参考にして、国外・国内を含めて3,000名計画していましたのでこれは大きく違ってしまい、参加

者数が6,000名を越えいろいろ準備段階で苦労がありました。こうしたこともこの会の盛会であり、多くの方達は一応満足して下さったことからみて、まあまあよかったと胸をなで下しております。

私は第2日目のパネルディスカッションで、アメリカ合衆国のAngela Kamara、オーストラリアの助産士Alex Whightと共に世界の助産婦活動を担当することになり、いろいろ考えた末に、過去・現在まで我国で働いてきた開業助産婦をとりあげることになりました。今後、この分野がどのような経緯をたどるのか一つの歴史的考察になればと思いました。紙数の関係で多くは述べられませんが、助産学会会員の皆様もご自分の目で見、肌で感じとっておられることと思います。

今回参加した国は53カ国でしたので、これから押しても次回、我国で開催されるのは相当先のことであろうと思われま

す。いろいろな意味で、中間的立場にある日本の助産婦が国内の地位を確保し、専門職にふさわしい活動が行なわれるためには、皆様が教育する若い助産婦の活動如何にかかわっていることを思いますと、この国際会場が世界の助産婦の発展に貢献すると同時に我国の助産婦の将来に意義あるものであってほしいと願わずにはられません。

関係者の方達のご協力に感謝し、皆様とともにこの会の終了をよろこびたいと思っております。



## ICM本部からの連絡事項

ICM本部よりの1990年11月30日付け書簡および事務局長の死去について

ICM事務局長マリ-ゴブラン氏は病気のため辞任、11月23～24日の理事会で承認、可能になった時点で顧問として寄与されることとなったが、その後12月13日に死去された旨通知があった。後任決定までジョアンウオーカー氏が事務局長代理としてフルタイムで12月1日に就任した。後任の選考は2月末ロンドンで行い、1991年半ばまでに就任を予定している。

第1回ICM研究カンファレンス オランダで1992年3月中旬に開催予定

(第1報)

■開催地：オランダ アイントホーフェン市近く

■会期：1992年3月13～15日

■内容：学術プログラム

助産学の分野における最新の関心事を取り扱い、全体会での招待講演と選ばれた抄録とポスターを含む分科会とから成り立つ。

主なテーマ：最近の国際的な助産学研究

助産婦業務における研究の再利用

研究者間のネットワークづくり

研究者と実践家の間のコミュニケーション

■会場：コニングスホフ

アイントホーフェン市近くの広い森林地帯に建つ会議用ホテル、集会センター

参加要項を希望する会員は別紙に記入の上3月15日(消印有効)までに日本助産学会事務局へ返送して下さい。ロンドンのカンファレンス事務局に請求します。

## 国際助産婦連盟(ICM)ニュースレター第3巻第1号〔1990年9月〕

### 1. 英国で助産婦教育への直接入学制度の開始

保健省は英国で初めて3年の助産婦教育課程を7課程を開設した。

#### 1) 定時制助産婦教育

専門職登録の第10部(登録助産婦)の国家試験の受験資格が与えられる定時制教育課程制度の認可が1988年12月に行われ、1989年3月その最初の課程が認可された。

#### 2) 助産婦の学士課程

英国で最初の助産婦の学士課程が認可され、1989年から開設された。この課程の修了者には助産学の文学士号が授与され、専門職登録の第10部の国家試験の受験資格が与えられる。(ENB年次報告1988～1989より)

### 2. 看護-助産婦教育課程ドリュ-大学およびミシガン大学で開始

ドリュ-大学およびミシガン大学の看護-助産婦教育課程の認定により、アメリカ合衆国の看護-助産婦教育課程は29となった。このことは、地理的に保健ケア提供者に乏しかったり、乳児死亡率の改善が必要なところから、国全体の保健ケアシステムにおいて看護-助産婦によってもたらされた極めて優れた成果をもたらした。

(アメリカ看護-助産婦会ニュースリリースより)

## 3. ドイツ、東ベルリンに新しい助産婦会

東ドイツの3,500人の助産婦のうち800人が、国内で起こった劇的な政治的变化に次いで1990年3月3日東ベルリンで結成された助産婦会に加盟した。

西ドイツ政府は、1977年以前に教育を受けた助産婦が国の認可を受けるためには西ドイツの分娩室で数週間働かねばならないと公表している。東ドイツの助産婦達は西ドイツ助産婦会への加入が可能になるよう、早期統一を熱心に希望し予期している。

(ヨーロッパ共同体(EEC)連絡委員会報告より)

## 4. カナダに助産婦法の動き

オンタリオ州では、「暫定取り締まり法規立法諮問委員会」のメンバー13名が助産婦の業務基準の作成と免許の要件設定作業を実施中であり、この点でカナダにおける助産婦活動の最前線にあると云える。また、この諮問委員会の活動を「助産婦法」の制定および「法人としての助産婦会」の設立まで継続するよう意図している。1991年の早い時期には州政府に「助産婦法案」が提出されると予測されている。

1990年3月6～9日に開催された公開討論会では、保健大臣が国際的な学識経験者を招き助産婦の教育と業務について審議し、これまでに保健省が行ってきた作業について助言し、寄与するよう要請した。保健大臣は「われわれは、助産が標準化され、信頼でき、きわめて有能な専門職であることを保証したいと考えている」と公表した。

ケベック州政府は実験的事業の枠内で助産業務に関しての法律を承認した。この法規は試行ベースで特定の条件下での助産活動を正式に認可する。現在審議委員会が設けられ、助産婦に必要な能力および教育の一般の基準を明確にし、助産婦として活動することを申請した者に対して許可を与えるための評価を行い、ハイリスクが妊娠に関する助産婦活動の基準や、助産婦が親生児のケアに従事してよいか否かについての基準を定めるために作業中である。

ICMは、この法律が制定された時免許を受けて働くであろうケベックの助産婦と共にま

## 5. ICM本部における新スタッフ

ジョアン・ウオーカー(英国の登録看護婦/助産婦)が1990年7月23日ICM事務局長のパートタイムの補佐として任用された。ウオーカー氏は最近まで西サリーおよび北西ハンプシャー地域保健局の助産婦部長代理であった。ウオーカー氏は神戸大会に参加の予定なので会員諸姉と会う機会があるだろう。

クリスティーナ・ハロッドはICM本部でパートタイムの管理者補佐として働き始めてから1年余を経過した。クリスティーナはウオーカー氏とゴブラン事務局長とが神戸へ出掛けている間の本部で留守を守る予定である。

これらの職員の追加はフォード基金からの助成金により可能となった。

## 6. 今後の集会予定

- 1) 産科および周産期保健におけるプライマリーケアに関する国際カンファレンス 1991年3月21～22日 オランダ s-ハートゲンボッシュに於いて

詳細問い合わせ先: Netherlands Institute of Primary Health Care

c/o L. Hingstman PhD

PO Box 1568, 3500 BN Utrecht, The NETHERLANDS

- 2) 健康教育に関する世界カンファレンス

1991年6月16～21日 フィンランド ヘルシンキ市に於いて

詳細問い合わせ先: The Finish Council for Health Education

Karjalankatu 2 C 63, SF-00520, HELSINKI, Finland

## 7. 出版物紹介

- 1) REVIEW AND APPRAISAL OF THE WORLD POPULATION PLAN OF ACTION 世界人口行動計画の見直しと評価(45ページ)

United Nations Publication 1989 ISBN 92-1-151185-2

社会経済的発展のあらゆる角度から包括的に検討し、女性の役割と社会的地位を強調し人口動向の範囲でプロダクション（生殖）と家族について検討している。別の章では教育問題における各国政府と国際社会の役割を扱っている。

2) EUROPIAN CHARTER ON ENVIRONMENT & HEALTH 環境と健康に関するヨーロッパ憲章

発行所：WHO Regional Office for Europe, Copenhagen

本憲章は1989年12月初めて開催された環境と健康に関するヨーロッパカンファレンスの最終集会で採決されたヨーロッパのすべての人に健康を政策の目標の延長線上に位置するものである。

3) STRATEGIES FOR HOPE : 1) From Fear to Hope

(booklet)

2) Living Positively with AIDS

3) AIDS Management: an Integrated Approach.

希望のための戦略:

(小冊子-英語、仏語あり)

(各1英ポンド50ペンス)

1) 恐怖から希望へ

2) エイズと共に積極的に生きる

3) エイズの管理: 統合された取り組み

Living Positively with AIDS (Video)

エイズと共に積極的に生きる(ビデオ)(45英ポンド)

これらの小冊子は革新的な現地プログラムのケーススタディを通して、エイズの予防やエイズに悩まされている人々の支持がどのような効果をもたらしたかを示すことを目的としている。

発行所：TALC PO Box 49

St Albans, Hertfordshire AL1 4AX, United Kingdom

4) FIGO MANUAL OF HUMAN REPRODUCTION

国際産婦人科学会ひと生殖マニュアル

発展途上国の産婦人科部門の長に対して無料で提供できる。

発行所：FIGO 27 Sussex Place, Regent's Park, London NW1 4RG, UK

5) NORPLANT CONTRACEPTIVE SUBDERMAL IMPLANTS-MANUAL AND TECHNICAL GUIDELINES.

ノルプラント皮下埋め込み避妊薬-マニュアルおよび技術的指針

家族計画技術的指針シリーズの1つで、発展途上国特有のニーズに重点を置いたものであるが、情報は先進国での家族計画活動にも勿論有効である。発行所：WHO 1990年

6) INJECTABLE CONTRACEPTIVES: THEIR ROLE IN FAMILY

PLANNING CARE. 注射可能な避妊薬: 家族計画ケアにおけるその役割

この包括的手引き書は注射可能な避妊薬の紹介ないしは入手が容易になっている地域の状況にも応用し易い。発行所：WHO ISBN 92 4 154402 3

7) PROTECTING, PROMOTING AND SUPPORTING BREAST FEEDING: THE SPECIAL ROLE OF MATERNITY SERVICES,

母乳栄養の推進、支持および保護: 母性事業の特別な役割(32ページ)

この声明は保健事業がいかに母乳栄養を推進したり逆に妨げたりするかを再吟味し、保健事業が果たす重大な役割の自覚を強めるよう努力することを奨励している。この声明の内容の各地域の状況への適用が要請されている。声明の内容は病棟や外来における妊婦、分娩および周産期の直接的ケアに限定されている。

発行所：WHO/UNICEF 1989 ISBN 92 4 156130 0

8) PREVENTION IN CHILDHOOD AND YOUTH OF ADULT CARDIOVASCULAR DISEASES: TIME FOR ACTION. (WHO Technical Report

Series 792) 成人期循環器疾患の小児期、青年期における予防：実践の時  
(WHO 技術報告叢書 792)

このレポートは、循環器疾患による障害や死亡に悩まされる者が増加しつつあることを  
打開するための研究や行動についての入手可能なさまざまな方略と実践のための勧奨につ  
いて述べている。 発行所：WHO ISBN 92 4 120792 2

9) COMMUNITY PARTICIPATION IN MATERNAL AND CHILD HEALTH  
FAMILY PLANNING PROGRAMMES.

母子保健・家族計画プログラムへの地域の参加

この振り返り調査はケーススタディと実施機関の構成員との討論により作成されている。  
その目的は効果的な地域の参加を促す因子や条件を導き出すことである。

) 発行所：WHO ISBN 92 4 156135 1 (英語版)

ISBN 92 4 256135 5 (仏語版)

10) ASPECTS OF SEXUALITY AND FAMILY PLANNING-MODULE 7.

性と家族計画の諸相-その7

不妊の診断と治療指針 発行所：WHO 1989

11) A GUIDE TO EFFECTIVE CARE IN PREGNANCY AND

CHILDBIRTH. 妊娠・出産期の効果的ケアの手引き

「妊娠・出産期の効果的ケア」および「オックスフォード周産期ケア評価の調査データ  
ベース」の2冊から結論の主要部分を要約したものである。本書は購入し易い価格で可能  
なかぎりの情報を供給するよう構成されているが、資料センターから要約でない完全な報  
告書が出版されることが望まれる。

発行所：Oxford University Press ISBN 0 19 261916 0

12) MATERNITY CARE IN DEVELOPING COUNTRIES.

発展途上国の母性保健

この小冊子はロンドンの英国産科学会で開催された2日間の会議録である。過去10年間  
WHOとFIGOの最優先事項であった『「安全な母性」についての認識と理解』に沿って  
2日間の会議は進行し、WHOとFIGOの主導性が保たれた。

発行所：Chameleon Press Ltd, London ISBN 0 902331 52 3

13) TOO FAR TO WALK: MATERNAL MORTALITY IN CONTEXT

歩いて行くには遠すぎる：妊産婦死亡の面から見る S. Thaddeus D. Maine 共著

このモノグラフは多くの学問領域にわたる文献調査の結果を提示している。妊産婦死亡  
に直接関連した文献に加えて安全な母性優先に役立つ関連領域の文献をも包含している。

発行所：Prevention of Maternal Mortality Programme

Center for Population & Family Health

60 Haven Avenue, New York, N.Y. 10032, U.S.A.

小切手または郵便為替で1冊8ドル50セント

指定受け取り人は Trustees of Columbia University



◎◎◎◎ 第5回日本助産学会学術集会のご案内 ◎◎◎◎

第5回日本助産学会学術集会をメインテーマ

「助産学の未来——その手がかりとなるもの——」のもとに下記の通り開催致します。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

会長 村山郁子

1. 期日 1991年3月17日(日) ..... 9:40~16:45
2. 会場 新潟県民会館ホール (新潟市一番堀通町三番地の一)
3. プログラム
  - 1) 一般演題:口演、示説(ポスターセッション、テレビセッション) 9:50~12:10
  - 2) ワークショップ 「私の考える主体的な助産活動」..... 10:20~12:10
 

座長	阿部文子	長岡赤十字病院婦長
	池田かよ子	新潟医療生活協同組合木戸病院婦長
演者	井口久子	国保町立ゆきぐに大和総合病院助産婦
	筒井ヤス	新潟市開業助産婦
	鈴木せい子	太田市開業助産婦
	青木英子	新潟市東保健所課長補佐
  - 3) 会長講演 「助産婦の近未来学」..... 13:40~14:30
 

演者	村山郁子	新潟大学医療技術短期大学部教授
座長	松本八重子	東京都立医療技術短期大学教授
  - 4) シンポジウム 「産み育てるにふさわしい環境づくりをめざして」14:35~16:45
 

座長	新道幸恵	神戸大学医学部附属病院看護部長
	堀内成子	聖路加看護大学助教授
シンポジスト	大日向雅美	恵泉女学園大学人文学部助教授
	辻村信正	新潟県環境保健部公衆衛生課長
	大室律子	文部省高等教育局医学教育課看護専門職員
	福岡光子	福岡助産院院長

(終了後メルパルク NIIGATA 郵便貯金会館で懇親会があります ... 17:30~19:00)
4. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について
  - 1) 参加費・学術集会参加費は6,000円(1991年2月21日以降は7,000円)  
懇親会参加費は5,000円です。参加を希望される方は下記に振込んで下さい。  
\*学術集会参加費・懇親会費・昼食代振込先  
郵便振替口座 新潟8-631、口座名称 第5回日本助産学会学術集会  
参加申し込みをされた方には、学会時の討議を円滑にするために「講演集」を事前に送付する予定です。会員以外の方のご参加も歓迎致します。  
3月5日以降に払込みの場合、払込票を必ずご持参下さい。
  - 2) 昼食申し込み  
昼食用弁当をご希望の方は予め学会参加と同時に申し込んで下さい。  
一食1,000円、昼食券は事前にお渡しします。(近くに昼食時間帯に多数を収容する食堂がありませんので念の為、申し添えます。)
5. 第5回日本助産学会学術集会事務局  
〒951 新潟市旭町通2番町746 新潟大学医療技術短期大学部 専攻科  
電話 025(223)6161 内線6200~6202

## 第5回日本助産学会総会開催のお知らせ

既に、学術集会案内等で、お知らせしておりますが、第5回日本助産学会総会を下記のとおり開催します。万障繰り合わせのうえご出席ください。

日本助産学会理事長  
近藤潤子

記

1. 日時 1991年3月17日(日)  
12:50 ~ 13:35
2. 場所 新潟県民会館ホール  
新潟市一番堀通町三番の一

## 3. 議事

- 1) 平成2年度活動報告・収支決算報告
  - 2) 平成3年度事業計画案・収支予算案
- 当日は「日本助産学会会員証」を携行し、受付に提示して総会要綱をお受け取り下さい。なお、当日の受付に「学会本部」のコーナーを設けて、次年度会費の受け付け、入会案内の配付等を致します、是非ご利用下さい。多数の会員の参加をお待ちします、会場への道順は学術集会の案内をご参照願います。

## 事務局だより

- \* 1990年後期発行予定のニュースレターが遅れましたがNo.4をお届けします。
- \* ICM 事務局長マリゴブラン氏の御逝去は誠に残念です。御冥福をお祈り致します。

- \* ICM 本部からの連絡及びニュースレター第3巻第1号は、松本八重子副理事長に翻訳の御尽力を賜りました。

